



●インストラクタ体験記

アクセス系技術者育成（指導者） 研修を終えて

日本電話施設株式会社 NTT事業本部
テクノロジー総合センタ 野末 浩幸

【はじめに】

「アクセス系技術者育成（指導者）」コースにOJTとして平成22年10月から平成23年9月までの1年間、(社)情報通信エンジニアリング協会 訓練部 東日本研修センターでお世話になりました。以下のとおり研修結果を報告します。

日本電話施設㈱では、三重支店で長く一般設計を行い、その後NTT事業本部で各支店への技術情報の取りまとめ等の業務に携わっていましたが、今後アクセス系技術者の指導者として必要なスキル等を東日本研修センターの訓練業務を通じて修得し、自社での人材育成のため、より多くのことを学ぶ機会をいただきました。

当初は設計畑の私に、人材育成に関する業務が務まるかどうか不安の毎日でした。無事務められたのも、研修センターおよび会社講師の皆様のご協力のおかげと感謝申し上げます。



講義模様

す。

【OJT期間の目標】

OJT期間が1年間と決まっている中で、まず年間の育成計画をアクセス部門長と面談をして決めました。そして毎月の訓練業務や各種修得

ノウハウに対する行動目標を決め、翌月初めには目標に対しての自分なりに結果や反省点を整理したのち毎月繰り返し面談を行いました。

当初は、研修センターや会社講師の皆様にご助言をいただきながら、目標達成にむけて行動することができま

表1 OJT育成計画

(OJT 育成計画)		(毎月レポート纏め)														
時期	H22°	3Q			4Q			H23°			1Q			2Q		
項目	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
育成内容	▲40J開始															
	▲24インストラクタ研修受講															
	▲21コンプライアンス指導者研修受講															
訓練業務	光ファイバ技術 (補助講師)	光ファイバ技術 (補助講師)	光ファイバ技術 (補助講師)	光ファイバ技術 (受講)	光ファイバ技術 (受講)	光ファイバ技術 (受講)	基礎訓練 (補助講師)	基礎訓練 (補助講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)	基礎訓練 (講師)
	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)	光地下配線 (補助講師)
各種ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得	レガシー技術及び光ファイバ技術指導ノウハウ修得
	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握	架空建設・光技術実習教材把握
OJT纏め																

した。

結果や反省をまとめる際には、書類の書き方や資料の見方などについても指導をいただき、「中身」と「レイアウト」の2点に注意しながら作成するとともに、日常業務の中で、他の会議資料を見るとき常に興味をもって見るということに気をつけるようになりました。

【講師の経験】

〈担任科班〉

- 第1回メタリックケーブル接続科
- 第2回光アクセスシステム設計科
- 第1回基礎訓練線路科
- 第2回基礎訓練線路科
- 第2回基礎訓練統合科
- 第3回基礎訓練線路科
- 第1回宅内無線LAN技術科
- 第2回VCAST映像基礎技術科

〈授業を行って〉

私が担任・講師をさせていただくにあたり、まず11月にインストラクタ養成講座を受けさせていただくことから始まりました。授業には「内容」と「仕方」が重要と学びました。「内容」として教科書を読み込み、「仕方」として授業の時にはZ目線・抑揚のある話し方等に注意しながら授業を進めることとしました。

その後、12月から担任として講義を行いました。最初の頃は、工法を間違いなく説明しなくてはなら



光ケーブル接続実習準備



人体転落デモ



架空光SLA指導者実習

いとの意識が強くて、目配り等がなかなかできませんでしたが、何度か講義をしているうちに少しずつではありますが、いろいろなことに目配りができるようになってきました。

4月からの基礎系研修は各会社の新入社員が多く、学校を卒業したばかりで右も左も分からない訓練生ですから、一言一言を噛み砕いて、分かりやすく教えること、また、受講生の顔を見渡すなどを意識して講義

しました。その結果、受講生の皆さんから「大変有意義でした。」とのアンケート結果をいただいたときは、大変嬉しかったです。

〈SLA指導者訓練（架空）〉

NTT-ME様の業況調査の結果を見ると、地下光に比べ架空光の施工不適合箇所が多い。またメタルケーブル切り替え時における誤接続が多発していることを踏まえて、各エリ

アごとに技術指導者を配置することを目的に「SLA指導者訓練（架空）」という新科班の立上げにかかわる事ができ、その中で教科書作成からカリキュラムや日程の調整等もさせていただき、無事に科班を立ち上げることができました。

実際に訓練では、受講生は各会社で現場経験が豊富な方々ばかりで技術的なことは分かっているので、この科班では受講生に教材のスライドを使って講義をしていただき「教える立場、教わる立場」について学んでいただきました。

(Skill Level Agreement)

〈危険体感安全訓練科〉

東日本研修センタにOJTとして来てから「危険体感安全訓練科」という初めて聞く訓練に出会いました。この訓練はNTT関係各社や通建業界各社を対象に、バケット車の傾斜地での誤手順等に伴うさまざまな危険作業について、現場で経験してはならないことをあえて体感することにより危険を再認識する訓練で、私自身も受講させていただき、危険を再認識する事ができました。



引込み線切断体感

その中で、私も講師として何度か説明をしたわけですが、ベテラン社員が多く受講するため、うまく説明できるかどうか大変緊張をして話をしたのが思い出されます。



傾斜地7°車両操作危険体感

【訓練の計画策定業務】

平成23年1月になると、次年度の訓練計画を策定する業務に携わりました。まず訓練科班ごとに受講希望数を把握し、どのような訓練をいづどのような内容で行うか検討をしました。その後、受講料を求めのですが、平成24年度からは協会組織の見直しにより受講料は受益者負担となり、教科書代や機借料等々細かく訓練科班ごとに計上し受講料を算出しました。

【教材の見える化】

皆さんもご存じのように、光に関する材料は、多種多様にあります。協会においてもさまざまな訓練用の材料を用意しています。ただ増え続ける材料を探すのは大変なことから、大きく材料種別の棚を分け、その中に材料種別ごとに小分けのケースを用意し、色による識別や実物写真を張り付けることにより物品名が分からなくても判別できるように整理し、受講生の実習の時に教



教材の見える化

材の出し入れがスムーズになりました。

【心に残った事】

このOJT期間中には、東日本大震災が発生しました。協会として実際に被災状況を確認するため、7月20日にTTK様と大和電設工業様の2社にご協力をいただき、宮城県仙台市内の被災地や仮設住宅を視察させていただきましたことになりました。

震災からは4カ月が経過しており大きな通りでは新電柱が立ち並び、仮設住宅では、メタルケーブルとともに、光ケーブルも架設されており光サービスも復旧しつつあるように見えていたが、訪れていない地域ではまだまだ復旧していない場所も多く、NTT様との間で工事の段取りに苦慮されていると聞き、大変ご苦労されていることを痛感しました。

【最後に】

訓練実施時には、会社講師として各会社からハイレベルなスキルを持った人に来ていただいています。その会社講師の指導方法や施工方法を少しでも習得しようと、積極的に質問するように心がけました。

訓練後も仲良くしていただくなど、大変多くの方々とは知り合いになれた事は、かけがいのない財産になりました。

最後に、今回1年間の研修に送り出していただいた日本電話施設(株)と、受け入れをしていただいた(社)情報通信エンジニアリング協会(本部)および東日本研修センタのセンタ長をはじめアクセス部門、ネットワーク部門、企画部門の皆様、また各会員会社の皆様、分科会委員の皆様は心より感謝し、御礼申し上げます。